

事業活動報告

「子ども樹木博士」報告

樹木医 小池英憲

開催日：平成 20 年 7 月 26 日（土）

場 所：森林体験センターと
その周辺（国有林）

参加者：合計 40 名

（付き添い 10 名、スタッフ 17 名）

主 催：千葉県樹木医会、千葉県森林イ
ンストラクター会、NPO 法人
樹の生命を守る会

後 援：千葉森林管理事務所、君津市教
育委員会、ちば里山クラフト研
究会

1. 開催内容

夏休みに入り最初の土曜日に、7 回目の子ども樹木博士を開催した。

毎年苦労している人集めは、今年は久留里町の祭りとも重なり特に応募者が少なかったが、猛暑にも係わらず事故もなく無事終了した。

班編成は午前中 3 班、午後 1 班で、1 班 2～5 名と少ない人員であるが細かな説明が出来て参加者は満足していると思われる。

今回初めて説明スタッフとして参加した方もいたが、それぞれの個性で子ども達に



（樹木の説明）

樹木の特徴を伝える工夫が見られた。

解答率の良し悪しは例年通りで、クリが 100% 正解、スダジイは 0% の正解率であった。解答率を上げるためにヒントを出しているが、正解率とあまり結びついていないと思われる。



（認定書授与）

今年は樹木医会の当番で認定書授与を行ったが、阪本会長が出席できないので、富塚さんが代理で授与式を行い、滞りなく会を終了した。

今年も千葉森林管理事務所、ちば里山クラフト研究会の協力でクラフトを行い試験の終わった子ども達は時間を忘れて小枝のクラフト作りを行っていた。

今年の新たな取り組みとして、参加者が少なかったので午前に寺嶋さんを説明者として、同じコースで会員の研修会が出来た事は有意義であると思われる。

今回は前回までの経緯を考慮して次のような開催内容の改善工夫を行ったが、改善の効果が現れたか否か、今回の反省会の意見と合わせて今後の運営の課題として検討して頂きたい。

2. 改善点

- 1) 試験問題を 30 問から回答率の悪い樹木を中心に削除し（但し房総の植生とし

- て重要な物は残した 20 問に変更した。
- 2) 試験樹木(コナラ)の順列の変更と、お城から下りルート(舗装道路)を尾根道の旧道に変更した。
 - 3) 準備は配布資料を簡素にし、下見を 1 回にし軽減した。
 - 4) 募集方法として君津市内の全校にチラシを配布した。
 - 5) 参加者が少ない場合、会員の研修会を行う。

事業活動報告

秋季研修旅行の実施

企画・事業委員会 有田和實

研修旅行が平成 20 年 11 月 30 日(日)～12 月 1 日(月)の 1 泊 2 日で行われました。例年は NPO 総会後の春に行なっておりましたが、平成 20 年度は『日本樹木医会千葉大会』の事業日程に接近していることから、秋季研修となりました。参加会員(会員 11 名・賛助会員 1 名)の協力を得てスケジュール通り数分の誤差のみで遂行し、全員元気に戻ることが出来ました。天候にも恵まれ、有意義な研修旅行でした。

1. 山梨県緑化センター

センター相談委員でもある、小野樹木医の案内でセンター園内をゆっくり研修しま



(錦秋の山梨県緑化センターを見学)

した。

地元生産樹木や景石を活用した作庭技術の丁寧な説明を受けました。



(相談委員小野樹木医による説明)

2. 須玉の大ケヤキ

山梨百名山の一つ「瑞牆山」の獅子吼城跡の麓にある根古屋神社境内の大ケヤキの樹勢回復について研修をしました。社殿修復の材料用に幹を切除した結果、切除痕から腐朽が入り根元まで大きな洞となっています。山梨県樹木医会が中心となって、腐朽を如何に止め、樹勢回復を如何にすべきかを案内した小野樹木医と共に大ケヤキの洞にもぐりながら検討会を行ないました。

3. 山高神代櫻

旧武川村山高「実相寺」に生育している、日本最古櫻の樹勢回復治療状況を、当初から携わってきた小林樹木医の 4 年間(平成 14～17 年)に亘る作業状況を、手作りパンフレットを基に丁寧な説明を受けました。

4. 山梨・石和温泉 草絵の里 割烹の宿『なかむら』

大型ホテルが目立つ昨今の温泉宿とは趣を異にする、こぢんまりとした落ち着いた温泉宿でした。お風呂もこぢんまりとして 24 時間入浴が出来、料理も、仲居さんの丁寧な説明を受けながら美味しく頂きました。

5. 恵林寺

身も引き締まる寒さの中、うぐいす廊下を渡り、恵林寺庭園を觀賞しました。恵林寺は、『乾徳山 恵林寺』と称し、夢想國師が開山した臨濟宗妙心寺派の古刹で、戦国武将武田信玄の菩提寺として、1320年に創建されました。県指定文化財の『三門』には、織田軍に焼き討ちにあった時の快川和尚の遺偈(ゆいげ)の額が懸かっています。

『安禅不必須山水滅却心頭大自涼』(安禅必ずしも山水を用いず心頭滅却すれば火も自ずから涼し)

6. 猿橋

日本三奇橋(『岩国の錦帯橋』『木曾の棧(かけはし)』『甲斐の猿橋』)のひとつ。長さ31m、幅3.3m、溪の深さ31mで、兩岸から張り出した四層のはね木によって支えられています。溪谷のモミジに映えてどっしりと架かっていました。



(溪谷のモミジに映える猿橋)

7. 上野原の大ケヤキ

上野原小学校校庭の南西端の崖っぶちに数百年を経たケヤキが聳え立っています。主幹北東部(学校側)が大きく腐朽空洞化し、一部キノコが出ています。小学校設立時(明治初期)に根元を厚く客土した結果が樹勢衰退の一因かと思われます。山梨県

樹木医会が必死に樹勢回復治療をしているそうです。

8. 多摩御陵・武蔵野御陵

多摩陵(第123代 大正天皇)多摩東陵(貞明皇后)、武蔵野陵(第124代 昭和天皇)武蔵野東陵(香淳皇后)の4基の上円下方墳をお参りしました。陵墓への参道は、浅川からケヤキ並木、陵墓域はキタヤマスギの厳かな杜を、玉砂利を踏み鳴らしながら御陵に近付きます。多摩陵はアカマツに覆われて厳かな空間でした。武蔵野陵は、開けた空間で明るい雰囲気を感じました。

事業活動報告

高速道サクラ診断研修会

企画・事業委員会 有田和實

平成21年1月17日(土)9時から17時まで、技術委員会と企画・事業委員会の共催で樹木診断研修会(街路樹診断研修会)を開催しました。真冬の最中でしたが、先日来の寒風も治まり温暖な一日を、20人の会員が暗くなるまで熱心に研修を行いました。

まず千葉市コミュニティーセンターで、調査とカルテの記入方法やスケッチの書き方、調査時の安全管理についても事例を交えながら座学を1時間勉強しました。その後、会場を東金自動車道野呂パーキングエリアに移動し、2班に分かれて、上り線(25本)・下り線(20本)の樹木の形状寸法測定、活力(樹勢・樹形)調査、骨格大枝・幹・根元の診断を行い、外観判定(外観健全度)の導き方を学びました。高速道路サービスエリア内の樹木調査はこれまであまり事例がなく、貴重な調査となりました。



(座学の様子)

列植状に植栽されているため、街路樹的な診断を行ったところですが、高速道路には一般都道府県道とは異なり、サービスエリアやパーキングエリア内交通島や緩衝緑地、バス停、料金所等多岐にわたり樹木が植栽され、安全で快適な道路利用に樹木が寄与しているところでもあります。

今回の診断結果を管理者（東日本高速道路(株)関東支社市原管理事務所）へ報告書として提出し、平成 21 年度以降の千葉県内を中心に高速道路の樹木点検調査業務に協力していきながら、樹木医の道路緑化維持技術向上に努めていきたいと念じています。



(調査状況)

事業活動報告

習志野での樹木医活動

樹木医 中村元英

1. 習志野市名木百選の指定

私が住んでいる習志野市は、年々都市化が進み市内の緑、巨樹・古木が失われてきている。そこで私達は習志野市議会を通じて、習志野市の巨樹・古木をもっと市民に知ってもらい、守ることを提案してきた。その結果、「習志野市名木選定委員会」が発足し、平成 13、14 年事業として名木選定作業がスタートした。

選定委員は樹木医 2 名（伊東伴尾、中村元英） 森林インストラクター、習志野市自然保護審議会会長、市民公募委員 2 名の計 6 名が市長より委嘱され、庶務は環境部自然保護課に置くことに決まった。

選定作業は、習志野市名木百選の樹木の選定基準を策定し、広報習志野、公民館等公共施設への募集チラシの配布、市民からの自薦、他薦での受付から始めた。

応募された樹木の現地調査を実施して名木選定票を作成し、名木選定委員会では市民推薦の 95 件（群落を含む）の名木の中から 75 件（一定水準で評価した数）を名木に選定し、市長が「習志野市名木百選」として指定し公表した。

市ではこの 75 件の名木マップを作成、市民に配布、樹木には名木表示板の取り付け、個人、学校、社寺及び町会等樹木の持ち主、管理者には市長名の「指定書」を発行して、地域住民、学生、児童たちに認識してもらった。

今後も樹木医、森林インストラクターのガイドで市民と共に、習志野市名木百選の樹木探訪ツアーを企画開催して、未永く市

民の宝として保護していきたい。

2. ハミングロードサクラ樹勢調査

平成 15 年度、習志野市東習志野 5 丁目から鷺沼台 2 丁目までの、習志野市を南北に縦断している 5.3km のサクラ並木の中から、幹周 30cm 以上のサクラ 640 本（中には幹周 180cm 以上のサクラも含む）の、外観樹勢調査を行った。



（サクラ並木）

その結果、A ランク（健全木）251 本、B ランク（やや不健全木）274 本、C ランク（不健全木）96 本、D ランク（植え替えが必要）19 本あり、D ランクのサクラは倒木の危険もあり植え替えの処置をした。又、C ランクのサクラからピックアップしてレジストグラフによる精密診断を行ったが以後の経過観察とした。

平成 17 年度、平成 15 年度に調査して C ランクと判定した 96 本のサクラの追跡診断調査をすると共に、習志野市鷺沼台 2 丁目から袖ヶ浦 3 丁目までの遊歩道 3.5km のサクラ 122 本についても同様の診断調査を行い、適正に処置をすると共に以後の経過観察とした。

平成 18 年度、習志野市内の公園樹の樹勢診断をすると共に、平成 17 年度に追跡診断

調査したサクラの中から要チェック樹木については、再度診断倒木等危険木を処置した。

平成 20 年度、平成 15 年度に診断調査をしてから 5 年を経過しているため、ハミングロード全体のサクラを健全度追跡調査をした。樹勢調査に基づき腐朽等による倒木危険木の若木へ更新し、その後適切な植栽管理をしてきたので健全度が上がり、年々美しい 8.8km のサクラ並木に成長をしている。

この他にも、習志野指定天然記念物正福寺大イチョウの樹勢診断樹勢回復作業、緑道のイチョウのペスタロチア病の診断、クロマツのこぶ病、根元腐朽の樹勢診断等を行って、習志野市と協働して地域の自然の保護に努めている。



（習志野市名木百選 正福寺イチョウ）